

謹賀新年



明けましておめでとうござ
います。市民の皆様におかれ
ましては、健やかにお正月を
お迎えのこととお喜び申し上
げます。

一昨年から続く新型コロナ
ウイルス感染症の流行下にお
きまして、本市では、市民の
皆様への速やかなワクチン接
種、地域経済の活力回復を最
優先課題に据え、関係機関と
の緊密な連携のもと、各種対
策に力を注いでまいりました。

そうした中、昨年には桐生
市制施行100周年・水道創
設90周年を迎え、この記念す
べき節目を皆様とともに祝う
ため、子どもたちの職業体験
イベント「子どもがつくるま
ち ミニきりゅう2021」
をはじめとする様々な記念行
事を展開してまいりました。

また、新たな市民体育館
「桐生ガススポーツセンタ
ー」の開館、陸上競技場「森
エンジニアリング桐生スタジ
アム」の大規模改修などによ
り、スポーツ環境の向上を図
るとともに、梅田浄水場の供
用開始や、中央共同調理場と
黒保根共同調理場の統合によ
る新築移転などを通じ、施設
運営の効率化、市民サービ
スの充実にも努めてまいりまし
た。本市の最重要課題である人
口減少問題に対しましては、

課題解消への取り組みをさら
に加速するため、移住者や地
域おこし協力隊、公募委員の
皆様をお迎えしたワーキング
グループを設置し、前例にと
らわれない新たな発想で、有
効な施策の立案に向け議論を
行っております。

そして今年、令和4年には、
私の市長就任4年目を迎えま
すが、首都圏からの玄関口で
ある新桐生駅において、長年
の悲願でありましたエレベ
ーター設置を含むバリアフリー
化が完了し、利便性が向上い
たします。また「未来へはば
たけ 山田製作所桐生が岡動
物園」では、新たにレッサー
パンダを導入し、更なる誘客
促進が期待されます。

さらに、「世界を見つめ、
世界に羽ばたく人材の育成」
を目標とする小中一貫の義務
教育学校「黒保根学園」を開
校し、市内全域を通学区域と
する小規模特認校として運営
していくほか、まちなかでは、
重伝建地区の公開活用施設の
保存修理に着手いたします。

近年、中心市街地やその周
辺地区においては、空き店舗
などを活用した創業者が増え、
まちなかの賑わい創出が図ら
れております。加えて、様々
な媒体を活用した広報活動に
より、本市のメディアへの露



出機会も増加し、日本が世界
に誇る伝統技術にスポットを
当てたBS日テレの特別番組
では、桐生織をはじめとする
本市の伝統工芸が紹介される
ほか、本町四丁目において、
番組で紹介される技術を体験
できる「ニッポンの神業ミュ
ージアム」が開設される運び
となりました。こうした取り
組みを通じ、本市の魅力がよ
り一層、広範に発信されるも
のと期待しております。

本市では引き続き、総合計
画に掲げる将来都市像「感性
育み 未来織りなす 粋なまち
桐生」を、市民の皆様と共に
感じ、共に創ってまいりたい
と考えておりますので、今後
も変わらぬお力添えを賜りま
すようお願い申し上げます。

新年にあたり、皆様の益々
のご健勝とご多幸を心からお
祈り申し上げ、年頭の挨拶と
させていただきます。

市長就任4年目へ
さらに「全力投球」でまいります

桐生市長 荒木 恵司



桐生市議会

議長

北川 久人

副議長

岡部 純朗

議員（議席順）

石渡 宏明

工藤 英人

飯島 英規

歌代 公司

渡辺 恒

関口 直久

園田 基博

人見 武男

近藤 芽衣

久保田裕一

辻 正男

田島 忠一

丹羽 孝志

山之内 肇

佐藤 幸雄

佐藤 光好

新井 達夫

河原井 始

福島 賢一

周藤 雅彦

「明けましておめでとう」ございます。市民の皆様におかれましては、令和4年の新春を穏やかに迎えのことと心からお喜び申し上げます。また、平素より市議会の活動について多くのご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染再拡大により、8月には群馬県に2度目の緊急事態宣言が発令されるなど、地域経済活動はもとより、様々なイベントや市民活動などが延期や中止を余儀なくされ、市民の皆様におかれましては、大きな不安や負担を強いられた年であったかと推察いたします。また、日々医療の最前線でご尽力いただいております医療従事者の皆様には、改めて深甚なる敬意と感謝の意を申し上げる次第でございます。

桐生市議会では、昨年、緊急事態宣言が発令された際に、災害時に議会機能を継続させるための業務継続計画（議会BCP）に基づく桐生市議会新型コロナウイルス感染症対策支援本部を立ち上げ、感染症対策にあたる市執行部との連携を密にし、情報の一元化と共有を図りました。また「新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に関する要望

書」や「新型コロナウイルス感染症自宅療養者等の投票機会の確保に関する要望書」を桐生市長に提出し、早急な支援策を講ずるよう求めました。

新型コロナウイルスについては、新たな変異株の出現により未だ収束の見込めない状況が続いております。さらに、全国的な課題である人口減少や少子高齢化、多発する地震や豪雨などの自然災害、県内において発生が相次ぐ豚熱（CSF）による本市の重要産業への影響など、課題は山積しております。

私どもといたしましては、この難局を乗り越えるためには、市民の皆様と共に知恵を絞り、共に手を携え解決することが肝要であると考えております。これまでも桐生市議会におきましては、市民の皆様から任されました議員としての職責を全うするため、「いちばん身近な頼れる議会」を目指し、議員一丸となって議会改革に取り組んでまいりました。現在はこれまでに築きあげてきた様々な取り組みを検証し、見直しを行っておりますが、早稲田大学マニフェスト研究所が行っております「議会改革度調査2020」のランキングでも、全国に1788議会ある中で第45位、群馬県内

では8年連続第1位と大変高い評価を頂きました。これは、意見交換会やまちづくり討論会、議会モニター会議などで市民の皆様からいただいたご意見を、政策提言や要望書に反映させている取り組みが大きく評価されたものと考えております。

今後も本市の輝かしい未来に向け、感染対策に万全を期したうえで、少しでも多くの市民の皆様と対話を重ね、桐生市の持続的発展のため、全力を傾注してまいります。ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

むすびに、本年が皆様にとりまして幸多い年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



市の持続的発展のため、 全力を傾注してまいります

桐生市議会議長 北川 久人

